

国史跡盛岡城跡

—第 40 次調査—

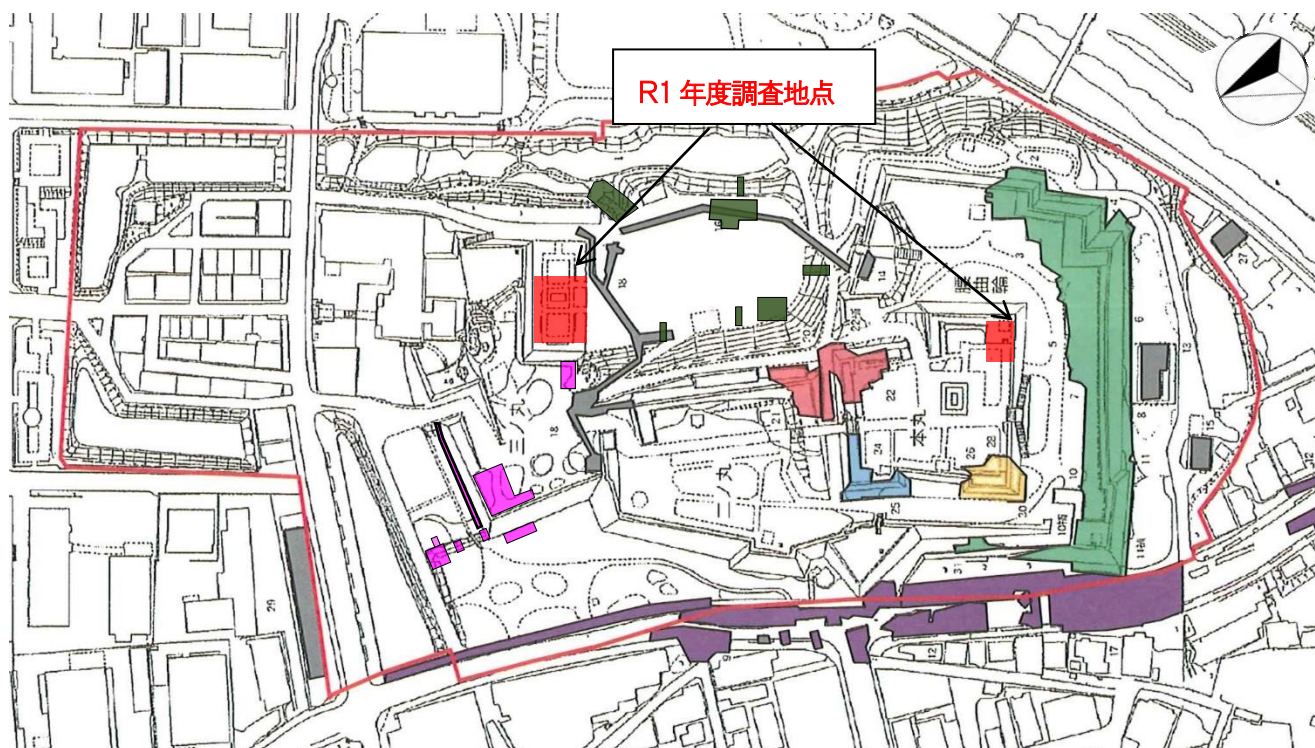
○盛岡城について

盛岡城は、旧北上川と中津川の合流点の丘陵地を利用して築かれた平山城です。初代盛岡藩主南部信直と2代藩主利直親子によって、慶長2(1597)年から本格的な築城が開始されました。およそその完成を見た寛永 10(1633)年に3代藩主南部重直が入城して以来、南部氏 20 万石の居城となりました。

明治維新後、盛岡城は陸軍省の所管となり、城内建物の保存も検討されましたが、荒廃が進み維持が困難なことから、明治7年(1874)に民間に払い下げとなり、建物のほとんどは取り壊されてしまいました。その後、公園整備の計画が進められ明治 39 年(1906)に「岩手公園」として開園しました。また、往時を偲ばせる雄大な石垣が良好に残されていたことから、昭和 12 年(1937)に国指定史跡に指定されています。

○発掘調査について

築城以来、400 年以上も風雪に耐えた石垣ですが、近年傷みが目立ちはじめ、崩落の恐れも心配される箇所も出てきました。そこで盛岡市は、「史跡盛岡城跡整備基本計画」を策定し、崩落の恐れのある三ノ丸北面石垣の解体修復(積み直し)を行い、それに伴う発掘調査を平成 25 年度より実施しています。また、史跡の整備を進めるため台所跡、塗師小屋跡などの発掘調査も同時に行っています。



盛岡城跡全体図および発掘調査実施箇所

■ 本丸北東・二ノ丸南東 (H5~6)	■ 淡路丸 (S59~H2)
■ 本丸北西 (H8)	■ 本丸南西 (H10~12)
■ 三ノ丸北西・南東 (H25~)	■ 台所 (H28~)
■ 都市計画道路拡幅 (S62~H1)	■ 確認調査等

1. 盛岡城本丸について

構造

本丸は城内で最も標高(約 143m)が高く、周囲の展望が開けた位置にあります。規模は南北 70m、東西 67m で北側が掘り切りを隔てて二ノ丸に面し、残りの三方は 6～7m 低い腰曲輪に囲まれています。本丸の各コーナーには櫓台がありますが、かつては北東に「隅櫓」、北西に「小納戸櫓」、南西に「二階櫓」、そして南東に「天守櫓(三階櫓・三重櫓)」が存在しました。本丸平地面には、ほぼ隙間無く「本丸御殿」の建物が立ち並び、本丸への出入りは、二ノ丸との間に「廊下橋」、東側に「御末御門(御本丸御門)」が使われていました。

これまでの発掘調査から、築城当初の本丸は、現在の規模と異なることが判明しています。具体的には南東隅を除く、全ての隅部分が現在の位置よりも内側に存在し、現在よりも規模の小さい本丸だったことが判明しています。

石垣

本丸の石垣は、盛岡城にある様々な石垣の積み方(盛岡城 1～4 期)を一同に見られることが特徴の一つです。逆に言えば、他の場所に比べて、修理や拡張が頻繁に行われていた場所であったとも言えます。

本丸東面の石垣は、割石を使った乱積み(2 期)ですが、中央部付近に野面石(加工されていない自然石)が使われており、築城当初(1 期)の石垣が残っている箇所と考えられます。御末門を挟んで北東～北西部は矢穴の大きい割石を使った乱積み(2 期)が続きます。本丸西面は中央部がへこみ、北西・南西部が突出する形になっています。北西部は乱積みですが、中央部付近から南西部にかけては目地の通った布積み(4 期)となっています。本丸南面は南西の一部が布積みですが、中央～東は全て乱積み(2 期)となり、明治期の石段に隠れて分かりにくいですが、石垣の高さの 1/3 より下は野面石が使われており、やはりここも築城当初の石垣が残存しているようです。

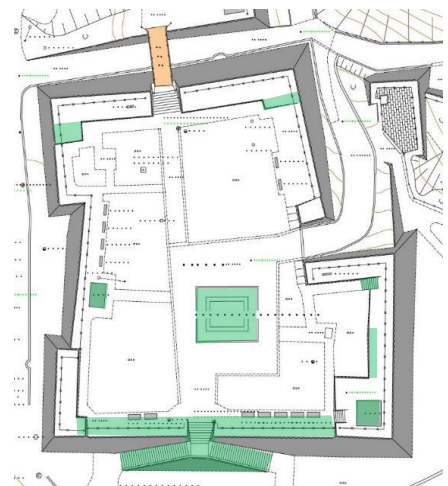
天守(三階櫓・三重櫓)

本丸南東隅に残る櫓台には、かつて三階建ての櫓が存在しました。築城当初は「三重櫓」と呼ばれ、寛永 13(1636)年の落雷による火災で一旦は焼失しますが、再建された延宝 4(1676)年以後は「三階櫓」と呼ばれるようになります。「天守」と呼称するようになるのは、13 代藩主利済の時代で、天保 13(1842)年以降です。

延宝 4 年に再建された時から、屋根には耐寒性が強く、見栄えのする釉薬の掛かった瓦、所謂「赤瓦」が使われるようになります。平面の広さは 1 階 50 畳、2 階 24 畳、3 階 12 畳という記録が残されています(国統大年譜)。またその高さは、ある資料によれば七間四尺寸(約 14.8m)、別な資料には七間一寸八分(約 12.8m)など資料によって記述が変わりますが、12～14m の高さの建物であったことは確かなようです。

改変箇所について

盛岡城は、岩手県が公園整備を計画し、明治 39 年に「岩手公園」として開園しますが、いたるところが改変を受けています。本丸においては、南側の石土居が取り崩され、天守台の付櫓、二階櫓、小納戸櫓、北東隅櫓の櫓台突出部の石垣が撤去され、櫓台内部に喰いこむ形で石段が設けられています。同様の石段は今回調査した、御末門南側の石土居の曲折部にも設置され、屈曲した石垣ラインも石垣が付加されて、全て同じ幅の石土居となっています。本丸南辺中央部には腰曲輪からの昇降に便宜をはかるための石段が新設され石垣上部に開口部が設けられました。また、本丸中央部には、明治 41(1908)年に日露戦争で従軍戦死した、南部利祥中尉の騎馬像が建立されましたが、銅像と周囲を囲む鉄鎖は、太平洋戦争末期に金属回収によって供出され、現在は台座のみが残っています。



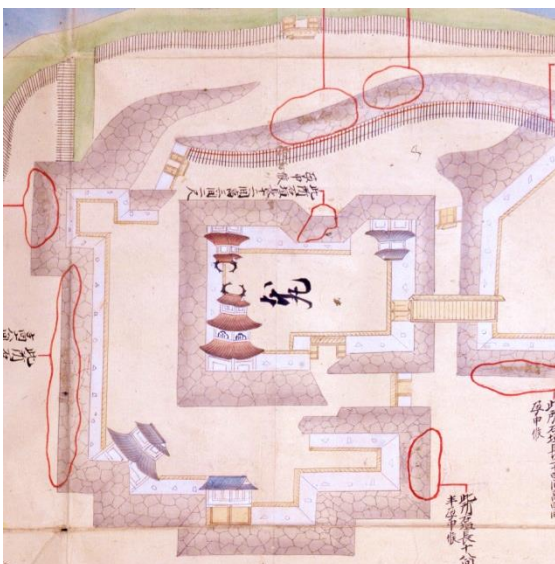
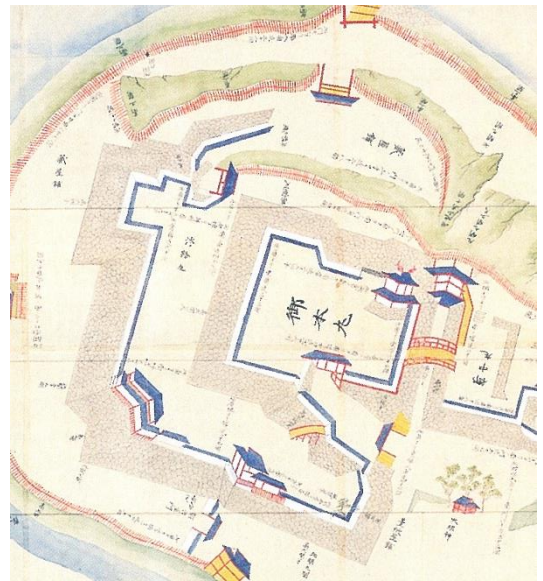
明治以後の本丸の主な改変部



盛岡城古写真（明治初期 盛岡市先人記念館所蔵）

○「伝寛永盛岡御城図(一部抜粋)」(もりおか歴史文化館所蔵)

伝寛永とありますが、幕府に提出した「正保城絵図」を下絵図として写されたもので、正保年間（1645 年頃）を示していると考えられます。本丸に存在した「二階櫓」と「三重櫓」が寛永 13（1636）年の火災により消失したため描かれていません。また、本丸と二ノ丸を繋ぐ「廊下橋」にもまだ屋根が掛かっていません。腰曲輪西側～二ノ丸西側もまだ柵を巡らせた崖状のままで、石垣が築かれるのは北上川の流れを変えた後の、貞享 3（1686）年です。

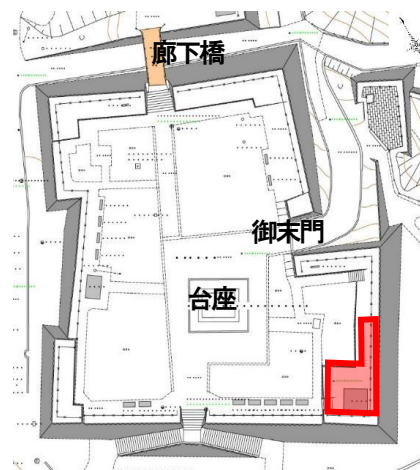


○「元禄 16 年普請伺絵図(一部抜粋)」(もりおか歴史文化館所蔵)

元禄 16（1703）年、幕府に石垣修理願を提出した際に、添付した図面の控えです。赤枠で囲まれたところが、石垣修理箇所を表しています。延宝 4（1676）年に再建された「三階櫓」と、前年に再建された「二階櫓」が描かれています。どちらも屋根が赤く塗られており、赤瓦が使用されていることを示しています。本丸と二ノ丸の間には、本丸御殿が再建されたとき（寛文 8 年：1668）に新たに作られた屋根付きの「廊下橋」が描かれています。

2. 第 40 次発掘調査成果(11 月 9 日現在)

調査期間	令和元年 9 月 5 日～同年 11 月中旬（予定）
調査位置	本丸南東天守台、石土居
調査目的	本丸地区史跡整備に伴う事前調査
調査面積	約 176.4 m ²
確認した遺構	天守台石垣：天端石（盛岡城 3 期）、根石（盛岡城 2 期） 石土居：天端石（明治）
出土遺物	軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦、陶磁器、鉄製品、古銭



第 40 次調査区位置

調査内容

第 40 次調査区は、本丸の南東隅に位置し、藩政時代は「天守（三階櫓）」が存在した場所です。明治 7（1874）年に民間への払い下げにより建物は取り壊され、明治 39（1906）年の岩手公園整備の際に、新たに石垣や石段が付加されるなど大きく改変を受けています。今年度は、その改変部分がどのような状態になっているのかを把握するために発掘調査を実施しています。

天守台上面内部・・・南東部に 1 辺が約 4m の方形の掘り込みを確認しました。それぞれの隅及び東辺中央には花崗岩の礎石が残されています。藩政期の栗石面を掘り込み、礎石の一部に 3cm ほどの小さい矢穴が残っていることから、岩手公園開園の際に設置された「四阿（あずまや）：凌虚亭」の基礎部分と考えられます。明治以後、「四阿」は何度も建替えられたようで、昭和期にはコンクリート基礎によって築かれ現在に至っています。北西部にもモミジを植樹した際に掘り込んだと考えられる、昭和期の大きな掘り込みがあり、その範囲にあった栗石は全て土と入れ替えられていました。石段も天守台内部へ大きく喰いこんで設置されていました。よって、藩政期の天守櫓に伴う内部の礎石は、残念ながらこれらの公園整備以降の改変により撤去されたのか、一つも残っていませんでした。

天守台天端石・・・天守台の内側石垣天端石と、外側石垣南東隅の天端石を確認しています。天端石に残る矢穴の大きさは、盛岡城 2 期（13～21cm）、3～4 期（4～6cm）と複数時期のものが混在し、建物だけではなく石垣そのものも改築されていることを示しています。この天端石は、本来、天守櫓の土台の木材を支えるものであり、一つ一つが礎石と同様の役割を果たすものです。

また、南東隅の天端石には赤く変色した野面石が使用されていました。これは、寛永 13（1636）年に三重櫓が落雷によって全焼した際、焼け残った石垣と考えられます。熱を受けて破損した石垣は、その後、新石材に交換されましたが、変色したのみで使える石材は再利用され残っていたようです。

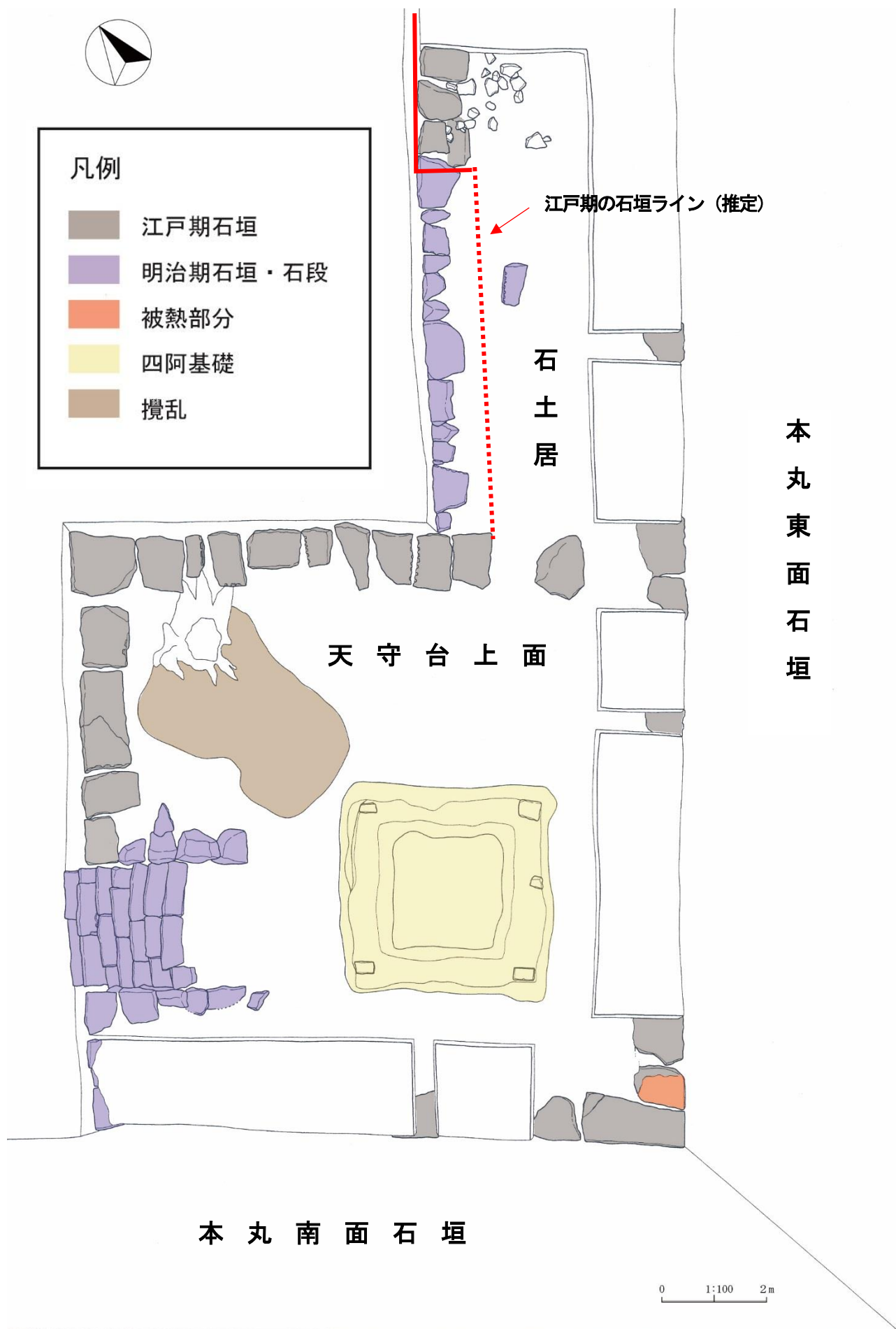
天守台西側根石・・・天守台の西側根石の一部も確認しています。北西隅の根石とその南側にある根石には、大形の矢穴が残っていることから、盛岡城 2 期（元和 3 年～）に今の天守台の土台が既に存在していたことを示しています。この根石を覆う盛土内からは、18 世紀以降の陶磁器が出土しているので、三階櫓が再建されてから（17 世紀後半）、周囲の盛土も入れ替えがされていたようです。また、この盛土上面からは、赤瓦が多量に出土しています。この赤瓦は、明治 7 年に城内の建物が払い下げになり、天守櫓が解体された際に屋根から落とされたものと考えられます。

石土居上面・・・天守台北側には、石土居が存在します。かつてこの上には、御末門に繋がる多間櫓が存在しました。この石土居西面の中央部付近に注目してみると、向かって左右で石垣の積み方が違うことが分かります。これは、公園整備時に右側の部分へ新たに石垣を付加したからです。藩政期には、この中央部付近から石垣が屈曲して、今よりも半間ほど内側に石垣が築かれていました。今回の調査では、今の石垣の内部に藩政期の石垣は確認することはできませんでしたが、石垣屈曲部の築石の控え幅（奥行き）から当時の石垣ラインは推定できそうです。



凡例

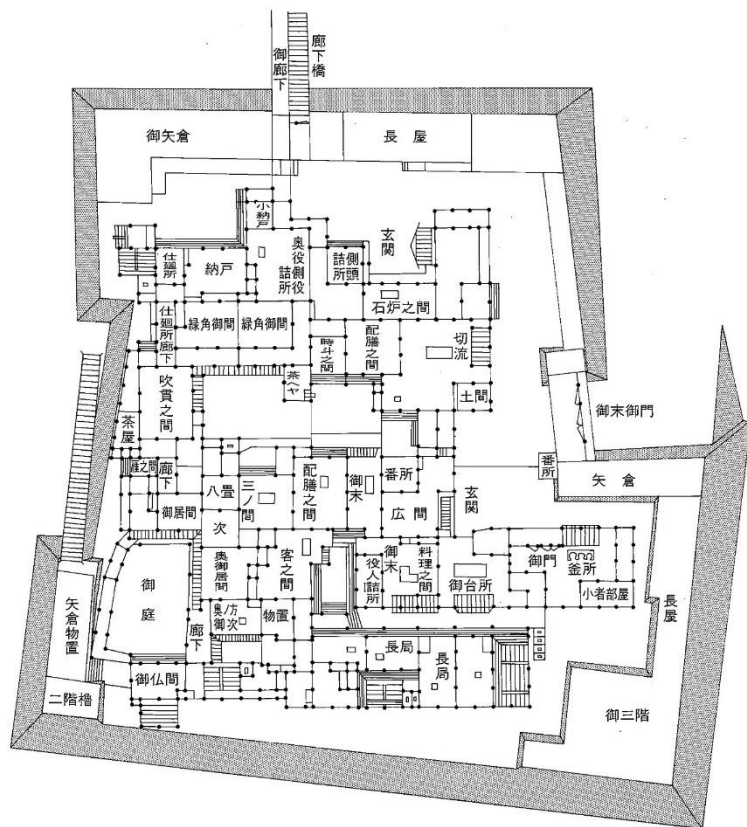
- 江戸期石垣
- 明治期石垣・石段
- 被熱部分
- 四阿基礎
- 攪乱



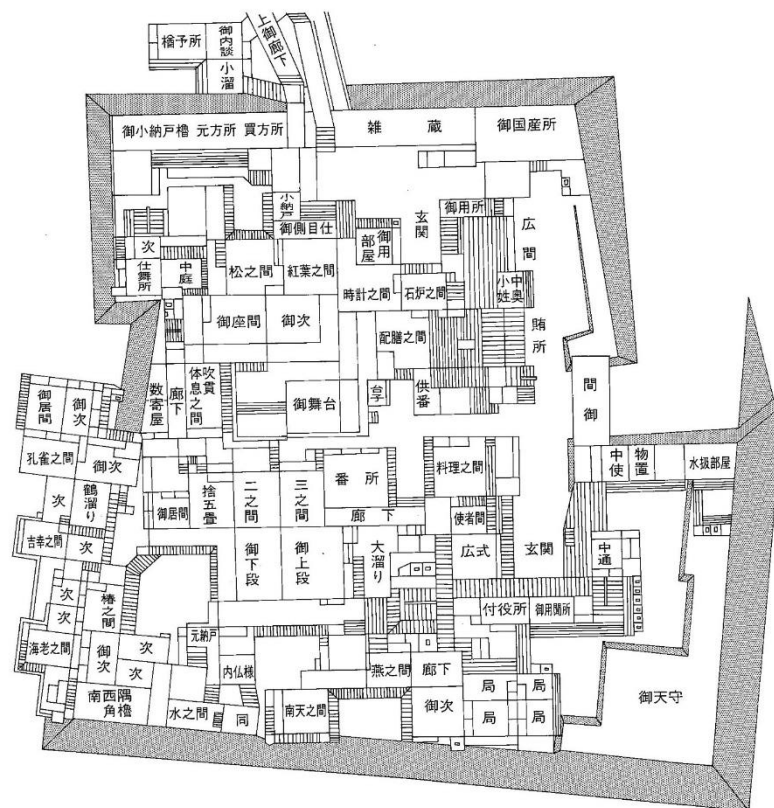
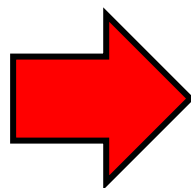
史跡盛岡城跡第40次調査区平面図

変遷 区分	年号	西暦	藩主	記 事
盛岡城 2期	元和5	1619	利直	盛岡城修築成り、南部利直が福岡城より移る
	寛永10	1633	重直	三代藩主重直盛岡城に入城。以後、藩主居城となる
	寛永13	1636		9月29日、盛岡城本丸炎上。『雷火にて悉く焼亡す、南の方の御蔵に火薬有けるに火移りて男女多く死す。』盛岡砂子より
	寛永18	1641		御新丸御殿造営なる
盛岡城 3期	万治2	1659	重信	本丸三重櫓鯨鋳造のため、京都の金師小泉仁左衛門を召抱える
	寛文8	1668		4月26日、本丸御殿再建
	寛文13 (延宝元)	1673		5月21日、幕府より舟入場の石垣修復、先年焼失の本丸三重櫓、二階櫓の再建について許可となる
	延宝2	1674		4月20日、本丸三重櫓、二階櫓再建にあたり、「瀬戸瓦」を発注
				7月17日、本丸二階櫓工事着手
	延宝3	1675	行信	本丸二階櫓再建、北上川の開削工事完成
	延宝4	1676		6月29日、本丸三階櫓棟上
	延宝8	1680		3月8日、本丸石垣築仰出
	延宝9	1681		2月9日、本丸石垣築懸
	天和2	1682		2月29日、普請中の本丸二階下、吹上門北側の石垣20間余が崩れる
				4月29日、同上石垣普請許可
				8月25日、本丸西側の石垣補修仰付け
				8月29日、本丸石垣の修理着手
	元禄16	1703		幕府に対し、本丸・二ノ丸・三ノ丸等の石垣11箇所の補修を願ひ出る
				9月29日、普請願が許可される
	元禄17	1704		1月2日、大地震により本丸の壁と石垣が崩れ、破損したため、藩主・諸役人共々御新丸に移る
盛岡城 4期	宝永2	1705	利幹	5月1日、二階櫓・車門・石垣修復について、幕府に願ひ出る
				7月1日、幕府に対し、二階櫓・鳩御門ほか修理願ひ出る
	宝永3	1706		3月3日、本丸石垣の修繕のため、御廊下（百足橋）、御二階取り壊し
	宝永4	1707		2月19日、石垣及び御二階櫓普請に着手
			利視	3月、本丸二階櫓石垣修復の石材を、本町裏の堀から採取
				3月19日、石垣並びに二階櫓の普請取付け
	宝永5	1708		1月24日、大風、北御櫓鯨吹き落ちて所々損す
	宝永6	1709		7月4日、三階櫓鯨棟上
	享保4	1719	利雄	1月10日、本丸御末より出火
	元文5	1740		本丸西北石垣・二ノ丸乾之方石垣修補許可される
盛岡城 5期				本丸三階櫓の瓦葺修理の普請に取り掛かる
	寛保3	1743		10月1日 本丸三重櫓瓦修復なる
	宝暦3	1753	利敬 利济	6月18日、御本丸百足橋下菜園入口の柳木に落雷す
	明和8	1771		御三階櫓を改修
	文化5	1808		2月25日、御末御門のことを御本丸御門と改称する
	天保13	1842		3月17日、本丸三重櫓を「天守」と改める
	弘化4	1847	利剛	本丸の表居間を改築本丸中庭に舞台が設けられる
	安政元	1854		本丸御殿の不要な部分を整理し始める
	文久2	1862		本丸天守櫓の普請できる
	明治元	1868	利恭	9月25日、戊辰戦争で盛岡藩降伏する
	明治5	1872		城域すべて陸軍省用地となる
	明治7	1874		城内建物を入札により払い下げ、取り壊し

本丸・天守櫓に関する主な出来事一覧（史跡盛岡城保存管理計画書より一部抜粋・加筆）



『盛岡城本丸建物平面図（写）』（江戸中期）



『靈承院様御代大奥御住居図（写）』（江戸後期）

※靈承院・・・盛岡藩第 13 代藩主南部利済（1797～1855）の法号。

三階櫓の呼び名を「天守」と改めた藩主でもある。

盛岡城本丸御殿の変遷



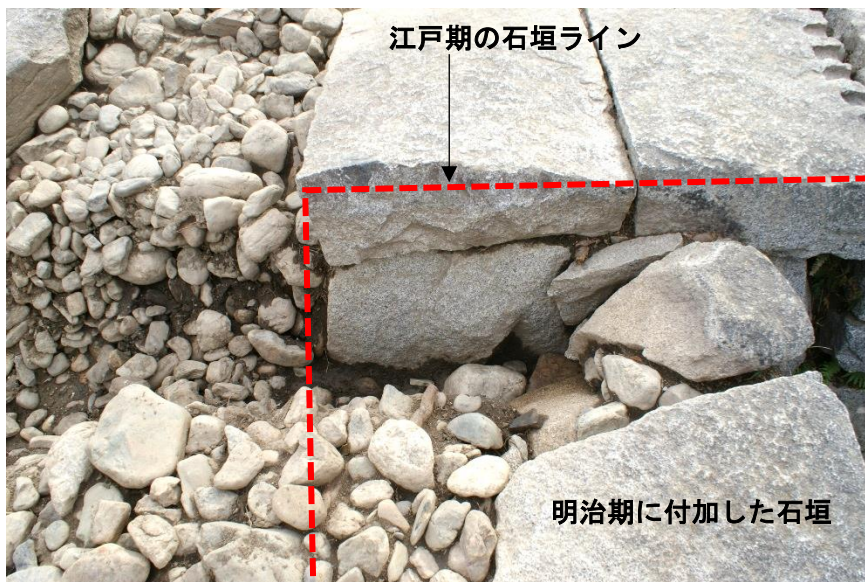
天守台 全景（北より）



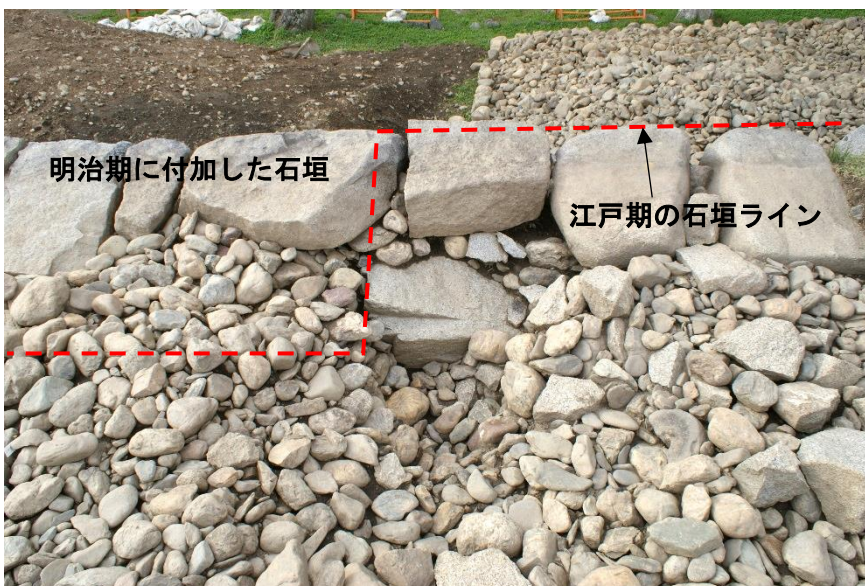
石土居 全景（西から）



天守台南東隅 天端石



石土居南側と天守台の入り隅部分（北から）



石土居中央と石垣入り隅部分（東から）



天守台北西隅根石（手前の礫群は根石を押える栗石）



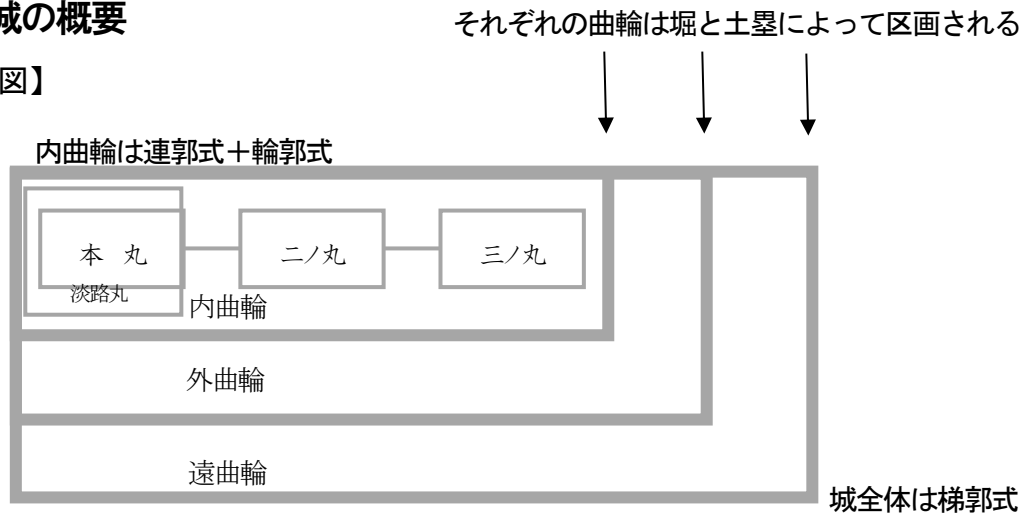
天守台西側下 瓦出土状況



明治以後の四阿基礎

3. 盛岡城の概要

【概念図】



(1) 基本構造

- ① 北上川と中津川の合流点に接した丘陵部に築城(平山城)
- ② 本丸がある内曲輪を要とし、外曲輪、遠曲輪(総構)の順に扇形に配置(梯郭式)
- ③ 曲輪のそれぞれが堀と土塁で画される。
- ④ 内曲輪は、本丸・二ノ丸・三ノ丸と、下曲輪が段下がりで連なり、腰曲輪(淡路丸)、榊山稻荷曲輪、台所などの部分から構成(連郭式+輪郭式)

※石垣のある内曲輪だけが盛岡城ではない。三つの曲輪を合わせて『盛岡城』となる。外曲輪(内丸～芝生広場)は他の城郭であれば「三ノ丸」と呼ばれている場所にあたる。

(2) 築城工事等

- ① 築城総奉行…南部信直の嫡子利直を総奉行に歟(鋤)初(慶長2年<1597>)
- ② 着工年代……慶長2年(1597)～慶長3年(1598)
- ③ 工事期間……40年以上→工事の中断(最上出陣、信直の死去、中津川・北上川の洪水等)
- ④ 仮居城……三戸城・福岡城(寛永12年<1635>)・郡山城(寛文7<1667>に廃城)
- ⑤ 完成時期……寛永10年(1633)頃←同年8月、利直の死亡によって重直の初入部(盛岡入)

(3) 築城・石垣普請に関わった人物

- ① 内堀伊豆頼式…近江国出身で元は浅井氏家臣。浅井氏滅亡後、前田利家に仕えていた。九戸合戦後、信直の招聘により南部家に移り、実際の築城の助言者となる。
- ② 奥寺八左衛門…石垣奉行。貞享3年銘石垣(二ノ丸西側)に刻字あり。
- ③ 野田弥右衛門…石垣奉行。貞享3年銘石垣と宝永2年銘石垣(三ノ丸北側)に刻字あり。
- ④ 川守田弥五兵衛…石垣奉行。宝永2年銘石垣に刻字あり。

(4) 改修事業

- ① 落雷による本丸御殿の延焼(寛永13年<1636>)
- ② 頻繁な石垣普請…洪水・火災・石垣の崩壊
- ③ 本丸の「三重矢倉(櫓)・二階矢倉」の再構築(寛文13年<1673>)
- ④ 三階櫓を「天守」と改称させる(天保13年<1842>)

4. 盛岡城の石垣

(1) 石垣の積み方

①乱積…大ききの異なる石を積上げる方法。石の大きさがバラバラなので、目地は通っていない。

盛岡城の中では、自然石を加工せずに積む方法（野面積）と、石と石が重なる面を増やすため、接合部を打ち欠いて積む方法（打込接）が確認されている。

②布積…大きさが揃った石を横に並べて積上げる。石の大きさが均等で、目地が横に通っている。

③算木積…石垣の隅（コーナー）の積み方。長方形に整形された石を長短互い違いに積む。



乱積(三ノ丸西側)



布積(三ノ丸北側)



算木積(瓦門北東隅)

(2) 矢穴の種類

矢穴…石材を分割するクサビを打ち込んだ痕。

時期ごとに長さが異なる。

- ・盛岡城 1 期…9cm～13 c m
- ・盛岡城 2 期…14～21 c m（盛岡城で最大）
- ・盛岡城 3 期以降…4～6 c m（盛岡城で最小）



(3) 石垣の種類

乱積…本丸御末門南東部，本丸御末門南東出隅，三ノ丸不明門西側，二ノ丸東面，淡路丸南西部，本丸三重櫓台，三ノ丸不明門東，二ノ丸南東部，三ノ丸瓦門南東部

布積…二ノ丸西側，二ノ丸北西部，二ノ丸北東，二ノ丸車門，榊山曲輪北，榊山曲輪東，乗者，淡路丸ハバキ，二ノ丸東側ハバキ，二ノ丸北東部石土居，本丸小納戸櫓台

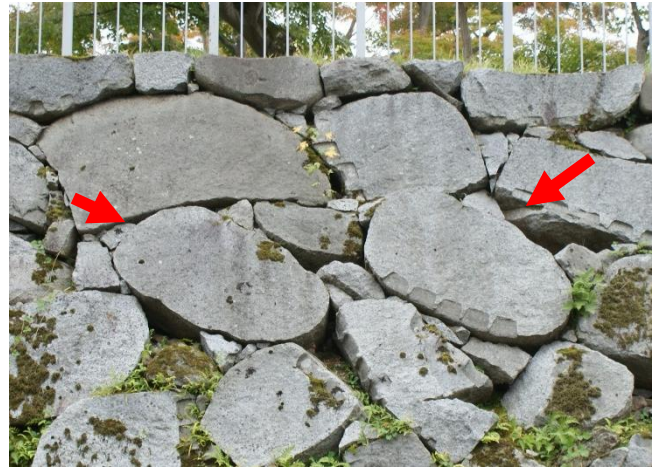
(4) 石切丁場遺跡

- ・東安庭の見石・日影山・金勢に，江戸中期～後期の石切丁場。なだらかな丘陵に大小の花崗岩。矢穴痕の石材が確認。矢穴の大きさから，延宝～宝永年間・寛保年間以降の石切場
- ・城内にも矢穴痕の石材あり。築城当初は城内・近傍（慶善館）から採石された。
- ・外曲輪（本町通りの堀）・八戸氏屋敷（現県庁付近），紺屋町，紫波町長岡から採石・運搬した記録あり。
- ・上米内・白石地区に，石材供給の伝説あり。花崗岩の転石が露呈してるが，矢穴なし。

城内に残る石材調達痕跡

○双子石

自然石を半分に分割し、その半面同士がピッタリと一致する石垣の築石。お互い、近い場所に積まれていることから、積み上げ直前に割ったと考えられます。他の城郭ではあまり見られない、盛岡城のみの独特な築石です。



本丸北面の中央上



三ノ丸南東部東面の中央



不明門脇

盛岡城の石垣様式と遺構の変遷

時 期		年 代	概 要
不來方城期	①	不來方城1期	14世紀末頃～
	②	不來方城2a期	15世紀末～16世紀前半
		不來方城2b期	16世紀後半
盛岡城期	③	盛岡城1期	16世紀末 (慶長2年:1597)～
	④	盛岡城2期	17世紀前葉 (元和3年:1617)～
	⑤	盛岡城3期	17世紀後葉 (寛文8年:1668)～
	⑥	盛岡城4期	18世紀前葉～中葉 (宝永元年:1704)～
	⑦	盛岡城5期	18世紀後葉～19世紀中葉 (～明治7年:1874)

(史跡盛岡城跡保存管理計画書より抜粋，一部加筆修正)

盛岡城内曲輪内図

